

創 立 90 周 年 を 迎 え て

同窓会会長 有田 和男 (31 回)

平成 19 年は、母校の創立 90 周年の記念すべき年に当たります。毎年 4 月 29 日には、創立記念音楽会が高校の講堂で開かれています。

学院沿革略史によれば、大正 6 年 2 月 6 日に私立甲陽中学設立の認可を得て、同年 3 月に今津村字東中畑に建設中の校舎が一部竣工し、4 月に一学年 200 名の授業が始まったとあります。大正 9 年 3 月に財団法人辰馬学院甲陽中学校設立の認可があり、大正 11 年 3 月に第 1 回卒業式が挙行され、卒業生 133 名が学び舎から巣立ったと記されています。

同窓会の相談役である西松龍一先輩は、この第 1 回の卒業生で、今年で 105 歳のご長寿を得られ、昨年の夏の会員総会にはご出席を頂き、お元気なお声で母校と同窓会に激励を頂戴しました。

同窓会の歴史について、その設立の時期と経緯について現状では定かではありません。ただ昭和 38 年に、第 1 回卒業生が中心となり、甲陽学院同窓会の基盤を固められたと聞いています。それまでは、学校長が同窓会長を兼務されていたとのこと。そして、第 7 回卒の故・北村善一先生が、同窓会の事務局を守られていたと、その後を引き継がれた第 22 回卒の故・中島久先生からお聞きしました。

同窓会発足の正式な年代や経緯について、創立 90 周年の記念事業の一つとして、アーカイブス部会で先輩の方々からお話をお伺いし、同窓会創設当初の目的やご苦心された事柄やお考えなどを正確に記述し、先輩が築かれた偉業を、甲陽ホームページに記録として残したいと、その作業を開始しました。

同窓会として、この創立 90 周年のメインとなる記念事業としては、甲陽奨学金基金の更なる募金活動を考えています。一昨年から、奨学金ファンド管理委員会が活動を開始し、同窓生の皆様方の御厚志を得て、平成 18

年末現在で 24,551,252 円の基金が集まりました。この中から既に 5 名の在校生に対して、奨学金がそれぞれ支給されています。

この奨学金制度の発想の原点は、阪神大震災の前後に遡ります。当時の社会・経済状況の中で、会社の倒産またはリストラ、或いは両親の離婚とか死別などによる家庭の事情で、母校での学業継続が困難となった在校生もあると聞き及んだことから、同窓会で何か貢献ができないかと話し合ったのが始まりでした。

現状の奨学基金では、貢献と云うにはほど遠いものがありますが、この奨学金制度が発足した事で、創立 100 周年を目指して、支給額とその範囲・内容の充実と拡大を図りたいと願っています。その最初の一步として創立 90 周年記念事業の柱として、奨学金基金の募金活動を推進させたいと考えます。

この募金活動の詳細は、次号の会報でお知らせをさせて頂きますので、何卒皆様のご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

創立 90 周年の新しい年を迎え、時代の進化と共に同窓会も、厳しい諸問題の解決に直面しています。同窓会をお預かりする立場にある者として、今何を為すべきかを考える時、過去に学び・現在を考え・未来を洞察し、如何に諸問題と対決し対処すべきか、その活動を積極的に進めたいと願っています。

甲
陽
だ
よ
り

発行所

〒662-0096 西宮市角石町 3-138

甲陽学院同窓会

発行人 有田和男

印刷所

株式会社 小西印刷所

西宮市今津西浜町 2 番 60 号

TEL (0798) - 33-0691

同窓会事務局専用

TEL 0798-71-4888

(月・水・木 金 10:00~16:00)

FAX 0798-71-4890

E-mail :

fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

同窓会公式ホームページ

[http://www.koyogakuin-](http://www.koyogakuin-oba.jp)

[oba.jp](http://www.koyogakuin-oba.jp)



白鹿クラシックス
Hakushika Classics

西宮市鞍掛町(礼場筋・臨港線交差点)
■定休日/火曜日

レストラン & カフェ

AM11:00~PM10:00

(ラストオーダー PM9:00)

明治時代の酒蔵を

シック&カジュアルな和空間に。

0798-35-0001

ミュージアムショップ

AM10:00~PM7:00

蔵元ならではの、

お酒にまつわるアイテムが大充実。

0798-35-0286

酒ミュージアム

白鹿記念酒造博物館

AM10:00~PM5:00

(入館は4時30分まで)

日本固有の文化「酒づくり」を未来へ伝承。

0798-33-0008

創立90周年記念事業計画

我が母校・甲陽学院は本年創立90周年を迎えますが、この記念すべき年にあたって、同窓会でも次の二つの事業を柱として活動していくこととなりました。その一つは昨年から始められた甲陽学院同窓会奨学金基金の一層の拡充を目的とした募金活動、もう一つは恒例となっている夏の同窓会総会を記念大会として充実させることです。その詳細は次号にて発表いたしますが、ここに、その概要を紹介し、皆様のこれら記念事業への積極的なご参加をお願い申し上げます。

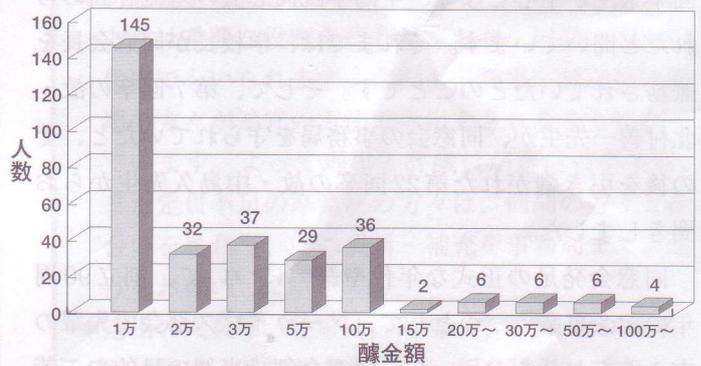
卒業生と母校、在校生を結ぶ絆

甲陽学院同窓会奨学金ファンドにご協力を

同窓会の皆様のご支援の下に設立された「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」は、昨年、25名もの応募者の中から奨学生5名を選考し、いよいよ支給実行の段階に入りました。この奨学金制度を永続させるための目標基金額は1億円ですが、2007年1月現在のファンド基金残高は2,300万円強であり、より一層の基金の充実を図らねばなりません。同窓生各位の更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い致します。

甲陽学院同窓会奨学金は皆様のご理解とご協力をえて、2006年度から給付を開始しましたが、現在の規定では各学年一名ずつ年額20万円を給付するとなっております。しかし、給付の一層の充実を目指し、かつ永続的な制度として定着を図るためには、基金をより強固なものとする必要があります。そこで、ご参考までに、右に金額別の醸金者数分布をグラフにしました。また、下に、回生別の醸金者数をまとめました。()内の数は、卒業生数から住所不明者数と物故者数を引いた各回生の人数に対する割合です。募金要項は前号(74号)に掲載しておりますが、一口1万円から、口数、醸金回数に

上限はございません。一人でも多くの同窓生の皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。



回生	醸金者数	醸金者率
15	1	(3.0%)
16	1	(2.4%)
17	1	(2.2%)
18	3	(5.6%)
19	1	(1.6%)
20	0	(0.0%)
21	3	(3.3%)
22	5	(4.8%)
23	4	(3.1%)
24	1	(1.0%)
25	3	(2.1%)
26	0	(0.0%)
27	8	(8.5%)
28	0	(0.0%)
29	1	(3.1%)
30	1	(3.7%)
31	15	(19.0%)
32	3	(3.4%)
33	7	(6.1%)
34	27	(38.6%)
35	25	(24.3%)

回生	醸金者数	醸金者率
36	5	(5.9%)
37	34	(30.1%)
38	1	(1.1%)
39	10	(7.8%)
40	10	(7.4%)
41	6	(4.5%)
42	6	(4.4%)
43	3	(2.0%)
44	2	(1.3%)
45	8	(5.3%)
46	3	(1.6%)
47	4	(2.1%)
48	2	(1.1%)
49	5	(2.7%)
50	5	(2.6%)
51	8	(3.9%)
52	1	(0.5%)
53	1	(0.5%)
54	2	(1.0%)
55	3	(1.4%)
56	4	(2.1%)

回生	醸金者数	醸金者率
57	5	(2.4%)
58	6	(3.0%)
59	2	(1.0%)
60	5	(2.5%)
61	3	(1.6%)
62	8	(4.0%)
63	0	(0.0%)
64	4	(2.2%)
65	0	(0.0%)
66	0	(0.0%)
67	3	(1.6%)
68	0	(0.0%)
69	2	(1.1%)
70	2	(1.1%)
71	0	(0.0%)
72	2	(1.0%)
73	0	(0.0%)
74	0	(0.0%)
75	1	(0.6%)
76	3	(1.9%)
77	1	(0.6%)

回生	醸金者数	醸金者率
78	1	(0.5%)
79	1	(0.5%)
80	1	(0.5%)
81	0	(0.0%)
82	0	(0.0%)
83	3	(1.5%)
84	0	(0.0%)
85	0	(0.0%)
86	1	(0.5%)
87	0	(0.0%)
高商1	1	(2.2%)
高商2	0	(0.0%)
高商3	0	(0.0%)
高商4	0	(0.0%)
機械1	0	(0.0%)
機械2	1	(3.8%)
造船1	2	(5.1%)
造船2	0	(0.0%)
工業経営	1	(4.3%)

2006年6月29日以降12月31日までにファンドに醸金くださいました方のご芳名は以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(2006年6月28日以前に醸金された方は73号・74号に掲載しております。)

17回 原 淳三	37回 西垣斐夫	45回 青山雅史	58回 坪村太郎
20回 柳原博夫人	37回 中川博二	45回 阿野正敏	58回 城谷 学
21回 鈴木市松	37回 吉井忠彦	45回 小西省三郎	58回 中村 宏
23回 山本 仁	37回 浅野清司	45回 出田顕一	60回 井尻裕二
25回 高田典雪	37回 飯田雅雄	46回 岡田三彦	60回 高井裕之
25回 小田圭昭	37回 中村寿美雄	46回 小西忠雄	62回 栗栖孝一
27回 光野 昭	37回 酒井重治	46回 神田 剛	62回 大黒博司
27回 足立宜久	37回 越山 進	47回 大辻茂雄	62回 吉岡泰彦
29回 小西博夫	37回 南部 昌弘	47回 稲垣英夫	62回 久 義裕
31回 酒井 一	37回 近藤 勉	49回 村田宣夫	64回 佐中 安
31回 白井伸一	37回 吉谷 元孝	50回 板倉隆夫	69回 上原 徹
31回 鈴木 登	37回 大西 祥文	50回 門屋 明	70回 高橋博樹
31回 詠田善治	37回 細見 清	51回 小山文敬	75回 辛島理人
31回 山田耕太	37回 上田恵昭	51回 川口辰郎	76回 甲斐明彦
31回 高尾正敏	37回 目黒徹雄	51回 辰野久夫	77回 佐々木克司
31回 塩見武二	37回 安光 勉	52回 土居章展	78回 近藤淳一
31回 柿崎善弘	37回 清水正訓	53回 澤村博史	79回 呉服淳二郎
31回 森下敬司	37回 中本哲彦	54回 藤江 勉	83回 小西 勲
32回 藤原重信	37回 金川 宏	55回 桜井太郎	83回 小西 毅
32回 池田泰二	37回 宮武 毅	56回 清成宜人	機械2 浅井恭之
33回 東 雅弘	37回 鯉谷 誠	56回 鶴山禎三	造船1 猪口高明
33回 中川 健	37回 中島久男	57回 白尾誠二	
33回 若田雄太郎	37回 中村圭吾		
33回 森本数一	37回 土肥 弘		
34回 横内 昭	39回 今川彰男		
35回 阿部喜夫	39回 加輪上敏彦		
35回 角田修平	39回 河守哲夫		
35回 高橋堯男	39回 田村坦之		
35回 大坪 孟	40回 小林正俊		
35回 坪井弘光	40回 岡ミチオ		
35回 鈴木靖雄	40回 松宮正幸		
35回 下村 勉	40回 久米宏幸		
35回 安部 隆	41回 加藤紘一		
35回 神保全孝	41回 竹田駿輔		
35回 神戸陸夫	41回 平島徳治		
36回 岡居真恭	42回 宮崎恒彰		
37回 奥野 汎	42回 小味淵博雄		
37回 芦原義倫	43回 藤本勝司		
37回 澤井敏治	43回 平井真一		
37回 櫻井健司	44回 喜多 毅		
37回 藤原國雄	45回 田中健一郎		
37回 宇賀克夫			

謝辞

奨学生選考委員会

このたび同窓会の皆様のご厚意によって本学院生徒に対する奨学金の制度が設立されましたことに、心から御礼を申し上げます。

同窓会からは、奨学生の選考については学校に一任するとのことでしたので、その公正を期するために校内に選考委員会を組織いたしました。委員には、校長・中高両教頭・中高両教務主任・中1から高3までの各学年主任があたり、昨年7月に選考委員会を開きました。

奨学生への応募は25名ありました。委員会で慎重に審議いたしました結果、応募者のいなかった高2を除く各学年から1名、計5名の奨学生を選考いたしました。卒業生の皆様方のお志に重ねて感謝申し上げます。

～事務局からのお願い～ 年会費・終身会費の納付をお願いします

同窓会は、皆様からの年会費・終身会費の収入があつてはじめて活発かつ円滑な運営が行われます。

年会費は、平成20年度から増額される動きにあります。

新終身会費の特典(最高2万円の減額)は、平成20年度をもって、その特典の期限が終了となります。その特典の有利さを生かして、その期限内に年会費から終身会費への切り替えをお勧めします。

卒業年度によって終身会費の納付金額が異なりますので、9頁掲載の「終身会費・各回別納付金額設定表」をご参照の上、毎年の年会費の納付から、1回限りの終身会費の納付への切り替えをお願いします。

これにより、事務局として、同窓会業務の煩雑さが減少し、業務の合理化と日常経費の削減にも繋がります。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

企画満載！
創立90周年記念

会員総会のご案内

(詳細は次号にて)

夏の行事として恒例となっている会員総会。今年は母校創立90周年を記念し、より内容の充実した総会にしようと、会員総会運営委員会を中心に、現在計画を進めております。この記念すべき年の「ホームカミングデー」にあたる学年は38回生と63回生です。また、当番学年は58回生です。詳細は次号にてご案内しますが、大まかな骨子をご報告いたします。当日は、ご家族・ご友人お誘い合わせの上、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

日時 2007年8月25日(土) 13時30分～17時
場所 ノボテル甲子園 鳴尾・甲陽の間
(TEL 0798-48-1111)
会費 一般会員 6,000円 (当日会費)
学生会員 2,000円 (当日会費)
同伴家族 2,000円 (当日会費)
新卒者 (2007年3月卒) 無料

◎事前申込み割引制度も用意しております。
詳しくは、次号にて、ご案内いたします。

第1部・式典と講演会

講師 中西 寛氏 (62回)

演題「岐路に立つ世界と日本の生き残り戦略」

中西氏は1985年京都大学法学部卒業後、同大学大学院法学研究科に進学、91年同博士後期課程を退学し、京都大学法学部助教授に就任。その間、88年～90年にはシカゴ大学歴史学部博士課程に在籍されていました。2002年からは京都大学大学院法学研究科教授に着任され、現在に至っておられます。著書には『国際政治とは何か』(中公新書)などがあり、日本を代表する国際政治学者として国内外で幅広く活躍されています。



第2部・ミニコンサート

出演 竹田昌弘氏 (59回)
島崎政子さん

2002年の総会でもその見事なテノールを聞かせて下さった竹田昌弘氏 (59回)と、ソプラノの島崎政子さんのミニコンサート。イタリアオペラの名曲とカンツ



オーネの熱唱を聴かせていただきます。

竹田さんは京都大学工学部、同大学院修了、現在大林組に勤務される傍ら、関西二期会会員、日伊音楽協会会員、舞台芸術トレーニングセンター会員として活躍されています。甲陽学院在学中は松井義知先生ご指導のもと、グリークラブで活動、高校時代から頭角を現しておられました。97年に和歌山音楽コンクール1位と市長賞受賞、日本クラシック音楽コンクール審査員特別賞受賞、翌年には日伊音楽コンクールに入選。オペラ出演も数多く、関西クラシック音楽界のホープです。

共演の島崎さんは大阪音楽大学音楽部声楽科卒業。関西二期会オペラ公演「フィガロの結婚」のバルバリーナ役でオペラデビュー。現在、関西二期会準会員です。



第3部・懇親パーティー

場所を移してのパーティーです。まずは元宝塚歌劇団星組スター、桐生のぼる (本名・岡本真弓) さんとそのチームによる歌とダンスのショー、“Dance & Song Live PETIPA!”をお楽しみいただけます。桐生さんは岡本紳平さん (84回・京大工学部在学中) のご母堂です。宝塚時代は、男役として鳳蘭や安奈淳のもとで黄金時代を築き、「ベルサイユのバラⅢ」本公演でオスカル役を好演。「風と共に去りぬ」新人公演ではスカーレット・オハラ役を演じた後、娘役に転向。83年に退団後はダンス教室PETIPAを開設してジャズダンスを指導。昨年ののじぎく国体キャンペーン「はばタンダンス」の振り付けを担当されました。



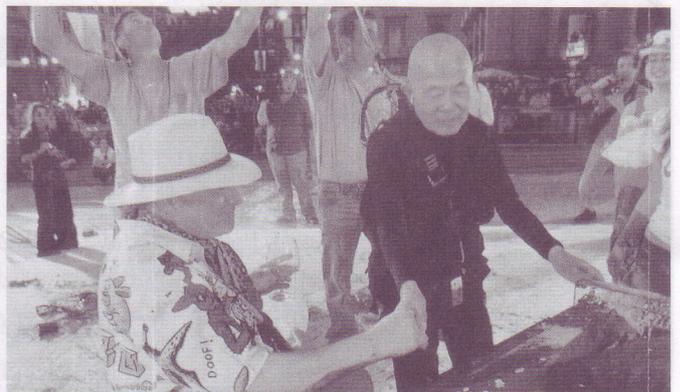
続いて、懇親会です。例年に増してさまざまな楽しい企画を検討中です。また、創立90周年記念品の販売や参加者プレゼントも予定しています。乞う、ご期待！

盛り沢山の会員総会。夏に発行予定の「甲陽だより」第76号で詳細を発表すべく、現在鋭意計画を遂行しておりますので、8月25日(土)の午後は我が母校・甲陽学院の同窓会総会に足をお運び下さいますようお願いいたします。

※ なお、母校への問合せはご遠慮下さい。

嶋本昭三氏 (24回) のアート・パフォーマンス

京都教育大学名誉教授・宝塚造形芸術大学主任教授で、現代美術家として活躍中の嶋本昭三氏が2006年5月27日、ナポリのダンテ広場において、自身をクレーンで吊し、100㎡のキャンパスに上空からペイントを落下するという大規模なパフォーマンスを実施されました。1500人を超える観客はこのパフォーマンスを大歓声で迎え入れていました。また、日本障害者芸術協会会長もされている嶋本氏は、今年7月に中国・北京で開催予定の中・日障害者芸術展の日本側の組織代表としてその成功に向けて取り組んでおられます。



学校だより

甲陽学院同窓生講演会

裁判官と裁判官の周辺

東京高等裁判所判事
門口 正人 (45回)

2006年11月11日(土)の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において、第6回の卒業生講演会を開催しました。今回は、東京高等裁判所の門口正人裁判官をお招きして、「裁判官と裁判官の周辺－裁判官を目指して、裁判官になって、裁判官から見て－」というテーマでご講演をいただきました。

門口氏は、甲陽学院高校をご卒業のあと、東京大学法学部に進まれ、司法試験合格、司法修習生を経て、裁判官の道を歩まれました。大阪地裁を振り出しに、全国各地の裁判所や最高裁、内閣法制局などに勤務され、現在は東京高裁の部総括判事を務めておられます。

当日は、自由参加にもかかわらず、85名ほどの生徒が集まり、会場は満杯となりました。門口氏は、黒の法服をご持参され、生徒たちは恥ずかしがりながらその法服を着用していました。(写真参照)

門口氏は、聴衆の生徒を9グループに分け、それぞれに課題事例を提示されました。例えば、「Aは、彼女が席を離れたすきを見て、こっそり彼女のメールアドレスを引き出した」「Aは、隣家のBの九官鳥があまりにう



るさいので、Bが留守のときに九官鳥を逃がした」「Aは、自転車で学校に行く途中、園児にぶつかった。起訴されなかったのに、園児の両親から損害賠償を請求された」などの事例で、それらについて各グループが自由討論をし、意見を発表させて、それに対して門口氏が解説をするという「参加型」の形でご講演は進行しました。第1番目の事例に対して「メールアドレスを知らないような関係は『彼女』とは言わない」という意見が生徒から出され、門口氏を驚かせたりしましたが、なかなかしつかりとした意見も多く、それらに対する解説の中で、「罪刑法定主義」「情報は財物か」「自力救済の禁止と正当防衛」「刑事と民事」「法定代理人」などのキーワードを分かり易く話していただきました。

1時間余り続いたご講演の後にも、生徒から「裁判員制度についてどう思うか」「我が国の刑事裁判の有罪率の高さについてどう思うか」などの質問が相次ぎ、予定時間を大きく超過する講演会となりました。

(甲陽学院高校教諭 今西昭 記)

躍進する高校バレーボール部

バレーボール部は、現在、2年生5名、1年生2名で活動を行っています。2年生は1月の選抜の県予選大会で引退(3年の4月末まで続ける者も多いですが)し、活動の中心は1年へと代替わりします。部の目標は県大会ベスト8で、ここ2年はその壁に跳ね返されています。どのようにすれば短所を補い長所を伸ばせるのかを真剣に考え、練習メニューを自分達で工夫しています。バレーボールをしていると苦しいこともあります。それ以上に机上では学べない多くのことが得られます。様々な人の支えに感謝し、これからも文武両道の精神で目標を達成すべく頑張っていきますので、応援よろしくをお願いします。

最近の主な戦績

阪神地区2部リーグ所属

県大会3年連続出場

(17年度選抜、18年度新人 ベスト16)

近畿私学大会2年連続出場

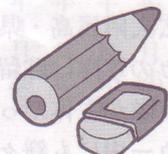
甲陽生、科学オリンピックで大活躍

青木和哉君(高3)が全国の高校生が化学の知識や分析力を競い合う全国高校化学グランプリで優秀賞を、また全国物理コンテスト物理チャレンジで金賞を受けました。1300人が参加した全国高校化学グランプリでは、理論問題の一次選考、実験を行う二次選考ともに最高点での受賞となりました。

また、今城健太郎君(高3)が国際情報オリンピックで銅メダルを受けました。毎年70ヶ国ほどが参加する国際情報オリンピックは今年はメキシコで行われ、厳しい予選を通過した日本代表4名が参加しました。使用メモリ量や実行時間に厳しい制限があり、良いアルゴリズムを設計するための高い数理的能力がプログラミング技能以上に求められる出題でした。

中学校新校舎増築完成

2006年度から中学校入学者数を増やし、1クラス30人台の5クラス制を目指して、無事順調に滑り出しました。そこで、従来より多くの普通教室が必要となりますので、英数国の研究室と3つの小ルームをそれに充てることとなりました。それに伴い、英数国の研究室と小ルーム5室を中庭に増築することとなり、去る12月に竣工しました。中庭は少し狭くなりましたが、普通教室の採光は以前と変わらぬ状態を維持しております。今春にはJRの新駅「さくら夙川駅」も完成し、ますます便利になる中学校ですが、このようなインフラの充足とともに、教育内容にも一層の充実を図っていく所存です。



第10回 リレー随筆

我が人生の原点はサッカー、サッカーの原点は甲陽

水野 隆
(旧姓 徳弘・29回)

昨年の夏、同窓会副会長の中村貞三氏（35回、サッカー部OB会長）から8月26日の同窓会会員総会の御案内を受けたが、当日、名古屋でシニアのサッカー大会があるため出席出来ない旨のお断りに、偶々送って頂いた「甲陽だより」74号の感想を付記した。それは同期の有田和男氏の会長就任、同じく同期の酒井一氏の随想、加えて幼少時から家族ぐるみの付き合いのあった柳原博先生逝去の記事など、懐かしい名前の列挙に覚えた郷愁の念を伝えたものであった。

その中村氏から今度は「リレー随想」投稿の依頼が来た。私は昭和23年の学制改革を機に旧制甲陽中学4年生修了後、関西学院高等部へ転校した身であり、同窓会誌に投稿する資格がないという理由で辞退したが、「甲陽・関学を問わずサッカー体験記を…」と言う強い説得に屈して、ペンを執る事となった。

文頭に挙げたとおり、私の甲陽時代の思い出は戦後の荒廃した校庭で復活したサッカー部への参加に始まる。校内に貼り出された「サッカー部員募集」の掲示に吸い寄せられるように近づいた。総勢10名足らずだったと記憶している。校舎の中央本館の地下に昔のクラブ室があり、恐らく戦争中（4年間ぐらい？）は開けられることもなかった部室の中は、脱ぎ捨てられたままのユニフォームやシューズ、カビだらけのボールなどいずれも再生不能の残骸が散乱していた。かくして私の甲陽中学校サッカー部生活は始まった。

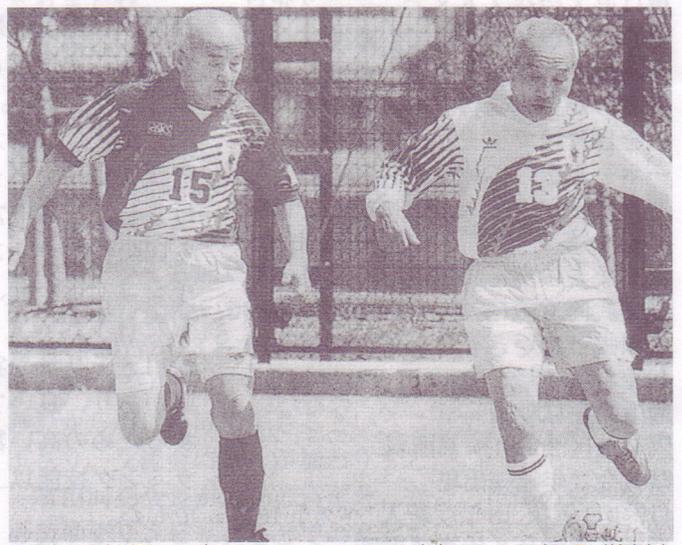
酒井氏の文中に、戦後のアメリカ駐留兵に逮捕されたくだりがあるが、同じ頃私にも苦い思い出がある。練習中、ゴールを外れて転がっていったボールをアメリカ兵がナイフで一刺し即座に練習は中止。当時のアメリカでは（日本も同じ）サッカーはマイナースポーツであり、サッカーの好きなアメリカ人は少なく、ボールを刺したアメリカ兵もよほどサッカーが嫌いだったに違いない。然し楽しかった思い出もある。我々の練習に一人のアメリカ兵が参加。一目でサッカー好きと解る身のこなしとボールさばきで「イージーイージー」と声をかけてきた。アメリカ兵から生の声で話しかけられた初めての英語だった。「楽に、楽に」と我々のごちこないボールさばきに対して実に適切なアドバイスであったと、後につくづく思ったものである。これも後日聞かされた話で、どんな影響があったかは想像の域を出ないが、戦後復活した全国中学（高校）サッカー大会で、驚異的な力で2連覇した広島（広大附属高・県立国泰寺）では、原爆を投下したアメリカの軍隊は駐留せず、替わってサッカー王国イギリスの軍隊が主体だったそうだ。

甲陽サッカー史にも錚々たるOBの名前があった。古

くはベルリンオリンピックに出場された故西邑昌一氏（9回）、身近な先輩として学生界NO1の誉れ高かった関学大の故木村正年氏（22回）、神戸商大で活躍され、我々も直接の指導を受けた殿村和祥氏（24回）などである。それに引き替え戦後復活した甲陽サッカー部は部員数も少なく、試合毎に11名を確保するため他のクラブに応援を頼むなど四苦八苦し覚えがある。有田会長もその一人。有田氏は長身で、陸上競技で鍛えられたジャンプ力はゴールキーパーに最適で頼もしい助っ人だった。当時よく練習試合の相手をしてくれた県立尼崎高校は20名以上の部員が尼崎から甲子園までランニングで駆けつけ、4～5点差で甲陽を圧倒して引き上げて行く後ろ姿を悔しい思いで見送ったものである。

昭和23年、前述の学制改革を機に、私は全国制覇を目指していた関学高校へ転校した。当時苦楽を共にしたチームメイトたちの熱心な慰留にも拘わらず私の決心を翻すことは出来なかった。昭和25年、晴れて憧れの関学大サッカー部の一員になった時、待ち受けていたのは前年度に大挙して入学してきた広島勢はじめ、同じ夢を抱いて全国から入学してきた同期生たちとの厳しい生存競争の始まりだった。

一方、私は甲陽に不義理をしてまでも入学した関学で、何時の日か「レギュラー」になることこそ、甲陽への恩返しと考えていた。そこで、練習の目標を「より速く走ること」「より多く走ること」「より多くボールに触れること」と決め、①雨の日②練習の無い日③夜、日が暮れてからを絶好の自主トレのチャンスと決めた。私は「ソロバン」からサッカー上達のヒントを得たことがある。ソロバン塾に通っていた友人の計算の速さと正確さに驚かされた。長い桁数の数字を斜めに見ながら、殆どソロバンを見ないで、親指と人指し指が流れるようなスピー



写真右が筆者近影 74歳以上のスーパーロイヤル大会にて H18年5月（於京都）

ドで球を動かしている。サッカーでは基本技として「ボールから眼を離せ」「周囲を良く見よ」と注意される。目隠したままではサッカーは出来ないが、ボールコントロールに習熟するとボールから眼を離す余裕が出来る。感覚でボールに触れる練習方法の一つとして、私は日が暮れてから、近くの小学校の校庭で暗闇の中でドリブルの練習をした。今なら不審者として通報されるような状況だったが、何も起こらなかった。世の中平穏だったのだろう。

同じ球技でも、ラグビーやバレー、バスケットに比して、サッカーは身長や体格のハンディが少ない。野球やテニスでも「筋力」の差が結果に影響するだろう。サッカーでは先に述べたようにボールコントロールの最大の要素は「正確さと速さ」である。これは体格とは関係なくソロバンと同様練習の量に左右される。私は「甲陽への恩返し」だけを心に決めて、レギュラーの座を目指したが、幸運にもその夢が叶えられた時、まさか、その座が昭和28年夏のドイツ・ドルトムントでのユニバーシアード代表、翌29年の第2回アジア大会代表の座につながっていくとは夢にも思っていなかった。

今、60年昔を振り返って、身長163cmの小身で、特に運動能力に優れていたとは思えない私がサッカーに出会い、サッカーの虜になった人生に運命を感じずにはられない。現在、中村貞三氏や若田雄太郎氏(33回)らとロイヤルサッカー(70歳以上)に興じている。

今改めて、甲陽でサッカーと出会えたことを感謝したいと思う。

第54回 甲陽一灘サッカー定期戦

平成18年7月30日、灘高等学校グラウンドにおいて第54回サッカー定期戦がおこなわれました。好天のもと、中学校、高校、OB戦の順でおこない、中学校は2-0で甲陽学院、高校も3-0で甲陽学院が勝利をおさめました。第1回からの通算成績は、中学校21勝29敗4引分、高校22勝21敗9引分不明2となっています。この不明の部分につきましては、昭和39年第12回と昭和40年第13回の記録が残されていないためです。ご存じの方がおられましたら高校サッカー部まで是非お知らせください。

例年6月下旬頃に実施していますが、今年は公式戦の日程と重なったため、上の日程となりました。平成19年度は、甲陽学院グラウンドにて、現在のところ、例年の日程で行いたいと考えています。

また、新年の初蹴り会につきましては、例年、高校グラウンドにて、1月3日に固定して行なっていますので、個々にお知らせすることは略させていただいております。日程を確認される場合は、インターネットにて甲陽学院ホームページのなかでご覧いただけるようになっております。(高等学校サッカー部顧問 森本)



■あて名ラベルの記号の見方

既に年会費をお納めの方や終身会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振り込み用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成19年1月31日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員H11年度 ←

♪ 卒 1 1 1 | 1 1 1 0 0 | 終

① 上段には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

② 下段には左から順に、平成元年度、2年度、…17年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院に在籍
0	〃	未納		卒	その年の3月に卒業

従いまして、**下段に含まれる0の個数 × 1000円**が、未納の年会費となります。同封の振り込み用紙にてお支払いください。

★H元年以降に御卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。次の二つの例をご参照下さい。

♪ ♪ 卒 1 1 | 1 1 1 1 0 | 0 0 0 0 0

H10以降は未納です。未納分をお納め下さい。

H15年分まで納付

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ | ♪ ♪ 卒 1 1 | 1 1 1 1 1

H8年3月に御卒業、さらに1年分の年会費を頂いたため、H15年度まで納付しておられます。

③尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

会 務 報 告

1 はじめに

平成18年度前半の会務につきまして、平成18年11月29日に開催されました理事会の議事内容にしたがってご報告いたします。

2 会務報告

(1) 会報編集委員会

本年7月31日付で「甲陽だより」第74号を発行いたしました。内容は、新旧会長のご挨拶、会員総会の案内、同窓会ホームページ開設記事、同窓会奨学金ファンドのPR、学校だより、リレー随筆、会員だより、訃報などでした。

次号2月末日付発行を目指して、12月初旬に編集委員会を開催します。

(2) 18年度会員総会の開催報告

平成18年度の会員総会は、8月26日(土)午後2時からノボテル甲子園にて開催されました。

第1部は、辰馬理事長、石川校長、有田会長のご挨拶のあと、37回の宇賀克夫氏によるご講演「ドーバーを掘れーヨーロッパの夢英仏海峡トンネルを掘った日本の巨大モグラたちー」を約1時間にわたり拝聴しました。

第2部は懇親会で、ご寄贈いただきました日本酒「白鹿」とサントリーのビール・ウイスキーが、懇親の場を盛り上げ、懐かしい思い出を語り合う一時を過ごすことができました。甲子園球場の阪神戦観戦チケットがあたるくじ引きなども行われ、また全員で校歌・学院歌を歌ってお開きとなりました。

ホームカミングの学年(卒業後50年と25年)は、37回生と62回生で、記念品(歩数計)を贈呈しました。企画・実行にあたる当番学年は57回生で、各委員の皆様にはご尽力を賜りました。

参加者は、ご来賓、恩師の先生方を含めて237名でした。うち新入会員の87回生は11名の参加がありました。参加者が最も多かったのは、ホームカミング学年でもあった37回生で、43名の方が参加されました。

(3) 奨学金ファンド管理委員会

これまでに4回委員会を開催しました。第1回では、新年度の委員長に塩谷氏(35回)、副委員長に當舎氏(37回)を互選した後、募金活動分科会・企画分科会・運用分科会・広報分科会・選考分科会の5分科会で作業を分担することとしました。その後、35回生、37回生を中心に募金依頼文の送付などを行いました。運用面の検討や、「甲陽だより」を通じての広報の工夫などについて話し合っていました。

醸金にご協力いただいた皆様に厚く感謝を申し上げます。(醸金の状況については本会報2頁・3頁に掲載の通りです。)

また、昨年7月には、母校在校生に第1回目の奨学金が給付されました。奨学金は1名年間20万円です。奨

学生への応募は25名あり、母校内にて組織された選考委員会で審査の上、5名(高2を除く各学年1名)を選考しました。

(4) 同窓会財政の報告

平成18年4月1日から12月31日までの会計収支につきましては、次頁に掲載の収支表の通りです。

ここ数年の会費の納付状況は、年を追うごとに納付率の減少が目立ち始めました。納付促進のために各学年の理事・評議員の皆様を通じた呼びかけをお願いしてまいりましたが、それにも限度があり、収支バランスが本年度は大きく崩れるのではないかと苦慮しております。

この状況の背景は、基本的には、平成10年度からの「新終身会費制度」の導入によって、多くの方が終身会費を納められ、毎年の年会費を納付される方が減少してきたことにあります。一方、新卒者からの終身会費制度も発足させましたが、まだまだPR不足もあり、理解不足もあって、十分な成果が現れていません。

平成10年度からの「新終身会費制度」は、納付促進のために「割引特典」を設けておりました。これは、元々2年間の「時限立法」として設けたものでしたが、それを1年延ばしに延長を行い、この制度の充実を図ってきましたが、この「特典」も平成20年度末をもって打ち切ることが、平成18年4月の役員総会で決定しました。

こうしたことから、新しい視点から同窓会財政を見直し、「特典」に代わる新しい制度を考え出さなければなりません。この新しい知恵の捻出を、新会務運営委員会に託したいと考えています。

3 会務運営委員会の新発足について

上記の「同窓会財政について」の中で報告いたしました問題意識のもとに、本年度より新たに「会務運営委員会」を発足させ、同窓会財政について抜本的に見直し、検討をしていただくことにいたしました。常務理事の方を中心として、これに理事・評議員の方々に参加をお願いして、委員会の構成を検討中です。第1回の委員会を本年度中に開催して、同窓会財政の現状認識と理解から議論を行う予定です。

4 創立90周年記念事業について

平成19年は、母校の創立90周年にあたります。同窓会としても、それを記念した事業に取り組んでまいります。記念事業としては、第1に「奨学金ファンドの充実」を掲げて、会員の皆様に広く呼びかけて醸金をつくり、ファンドの基礎を固めたいと考えます。

第2に「夏の総会の充実」です。90周年記念総会として、魅力的なゲスト・企画を考えて、盛大な会となるように努めます。組織としては、会員総会運営委員会に奨学金ファンド管理委員会からもメンバーを加えた「90

周年・会員総会運営委員会」を発足させ、今年度のうちから企画検討を進めてまいります。また、折りを見て、今度のホームカミング学年（38回と63回）と当番学年（58回）からも委員を加える予定です。（90周年記念事業の概要は、本紙2頁～4頁に掲載しています。）

5 公式HP&アーカイブス運営部会について

当部会の委員会への昇格については、現在、その活動範囲と内容について、更なる検討を加え点検中です。同窓会公式ホームページについては、会報編集委員会の部会に編入する案も考えられます。

現在の当部会は、母校と同窓会の古い歴史を残し保管するのが目的であり、一方公式ホームページの作成は、会報を補完し、同窓生の交流の場をホームページに求めるという、二つの目的があります。これを一つの部会で同時進行させるには、相当に無理があります。こうした点を討議して、その結論を導きたいという状況です。

6 地域甲陽会の活動状況について

「東京甲陽ネット」は、第2回交流会を10月27日(金)

に開催しました。60名余りが参加し、特に若手層が多く集まって、年齢を越えて、異業種間の交流が活発に行われました。

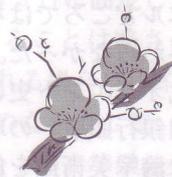
西宮甲陽医師会では、10月28日(土)に、広く阪神間の同窓生の医師の皆様が集まって、交流会が開催されました。50名近い方々が参加されました。

その他の地域甲陽会の動きですが、九州地区にも地域甲陽会結成の動きがあります。他校の同窓会においても、全国各地に地域同窓会がもたれており、それが同窓会本体を支える力となっているようです。甲陽においても地域同窓会の育成が同窓会活動の活性化を促すものと考え、こうした動きをサポートしてまいります。

7 おわりに

理事会において、上記の内容について、会長および担当責任者からの報告と説明があり、理事諸氏からの活発な質問、意見が述べられた後、それぞれ承諾が得られました。

[文責 事務局]



●平成18年度 12月分収支集計表●

[収入の部]				[支出の部]			
科目	12月分	累計4-12月分	予算額	科目	12月分	累計4-12月分	予算額
会費	110,500	3,483,500	10,000,000	人件費	311,400	1,630,400	2,116,000
※年会費	21,000	907,000	2,000,000	※月手当	128,000	1,152,000	1,536,000
※終身会費	89,500	1,501,500	3,000,000	※夏冬手当	160,000	260,000	300,000
※新卒入会金	0	0	600,000	※通勤費	23,400	218,400	280,000
※新卒年会費	0	0	1,400,000				
※新卒終身会費	0	1,075,000	3,000,000	交通費	0	94,020	200,000
				需要費	113,432	608,387	680,000
会報広告料	0	20,000	60,000	※通信費	18,104	363,242	500,000
総会費収入	0	808,000	700,000	※事務消耗品費	17,838	63,840	80,000
利子収入	0	1,500	20,000	※備品費	77,490	181,305	100,000
					0		
雑収入	9,000	13,500	0	会議費	236,103	2,477,061	3,000,000
寄付金	0	500	0	※会員総会費	0	1,544,587	1,700,000
				※役員総会費	0	262,078	250,000
収入合計	119,500	4,327,000	10,780,000	※理事会費	133,077	175,812	250,000
				※委員会費	103,026	494,584	600,000
基本金解約	0	0	0	※懇談会費	0	0	200,000
				事業費	0	1,904,862	3,540,000
繰越金	0	10,712,876	10,712,876	※甲陽だより	0	423,150	1,000,000
合計	119,500	15,039,876	21,492,876	※郵送料	0	762,432	1,500,000
				※振替用紙	0	65,835	120,000
◎H18年12月末日現在 現預金残高明細				※封筒	0	79,695	120,000
*三井住友銀行(普通預金)		248,606円		※記念品	0	533,750	600,000
*郵便局(普通預金)		313,703円		※母校後援費	0	40,000	200,000
*郵便局(振替通知票)		8,366,390円					
*三菱信託銀行(普通預金)		1,273,648円		雑費	44,665	257,955	340,000
*手持現金		174,844円		※校内志	20,000	40,000	40,000
合計		10,377,191円		※慶用その他	21,000	113,000	100,000
甲陽F預かり金(別会計11月)		2,540,000円		※振替料	2,720	68,660	100,000
(別会計11月)		280,000円		※その他雑経費	945	36,295	100,000
合計		7,557,191円		支出合計	705,600	6,972,685	9,876,000
◎平成18年度12月分 収入件数の合計と、累計				特別立入金繰入			66,000
科目	件数	累計		甲陽F立入金繰入	510,000	510,000	510,000
寄付金	0件	0件					
年会費	9件	337件		予備費	0	0	11,040,876
終身会費	3件	64件		支出総計	1,215,600	7,482,685	21,492,876
新卒終身会費	1件	41件					
広告費	0件	1件		収入総計		15,039,876	
総会費	0件	216件		支出総計		7,482,685	
雑収入	2件	3件		翌月繰越金		7,557,191	

(単位：円)

●終身会費・各回別納付金額設定表●

回生	金額	回生	金額	回生	金額
1回	10,000	34回	10,000	67回	26,500
2回	10,000	35回	10,500	68回	27,000
3回	10,000	36回	11,000	69回	27,500
4回	10,000	37回	11,500	70回	28,000
5回	10,000	38回	12,000	71回	28,500
6回	10,000	39回	12,500	72回	29,000
7回	10,000	40回	13,000	73回	29,500
8回	10,000	41回	13,500	74回	30,000
9回	10,000	42回	14,000	75回	30,000
10回	10,000	43回	14,500	76回	30,000
11回	10,000	44回	15,000	77回	30,000
12回	10,000	45回	15,500	78回	30,000
13回	10,000	46回	16,000	79回	30,000
14回	10,000	47回	16,500	80回	30,000
15回	10,000	48回	17,000	81回	30,000
16回	10,000	49回	17,500	82回	30,000
17回	10,000	50回	18,000	83回	30,000
18回	10,000	51回	18,500	84回	29,000
19回	10,000	52回	19,000	85回	28,000
20回	10,000	53回	19,500	86回	27,000
21回	10,000	54回	20,000	87回	26,000
22回	10,000	55回	20,500	88回	25,000
23回	10,000	56回	21,000	高商・1	10,000
24回	10,000	57回	21,500	高商・2	10,000
25回	10,000	58回	22,000	高商・3	10,000
26回	10,000	59回	22,500	高商・4	10,000
27回	10,000	60回	23,000	機械・1	10,000
28回	10,000	61回	23,500	機械・2	10,000
29回	10,000	62回	24,000	造船・1	10,000
30回	10,000	63回	24,500	造船・2	10,000
31回	10,000	64回	25,000	工業・1	10,000
32回	10,000	65回	25,500		
33回	10,000	66回	26,000		

※82～88回は前納年会費以外に上記の金額となります。

(単位：円)

山口 格太郎先生逝去

学校法人辰馬育英会理事で、本校において講師として教鞭を執られたこともある山口格太郎先生が、昨年10月27日に逝去されました。

山口格太郎先生を偲ぶ

橋本 久 (41回)
加美雅司 (43回)

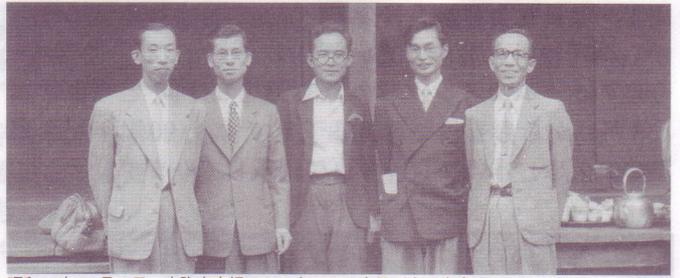


去る10月27日、学校法人辰馬育英会理事・滴翠美術館長山口格太郎先生が逝去され、12月11日に旧宅の同美術館でお別れの会が多数の参会のもとに営まれた。

先生は理事であるのみならず、昭和35年3月までは甲陽学院高校で教鞭を執られ、世界史担当の教員でもあった。旧制甲南高校を卒業後、京都大学文学部史学科で西洋史を専攻された。早口で詳細な、並の大学講義レベルどころではない豊富な内容。1年間で西洋古代史は終わらなかった。おかげで今でも私たちは先史時代・古代オリエント史には強い。しかし先代吉郎兵衛氏(旧山口銀行頭取)の収集された美術品を保存・公開するために滴翠美術館を創設され、一方で会社経営にも携わるといふ超多忙化のため教壇から去られた。しかし甲陽学院での教え子との交流は今日まで続けられた。

退職時の高校地歴部・中学社会科研究会員との交流もその一つである。中学・高校在学中に、先生に連れられて奈良や京都を訪ねて以来、ほぼ50年近くになる。大学を卒業して就職後も、「山麓会」(先生の命名)として、先生とともに近畿一円の古寺社・古美術を訪ね歩き、近年は春秋2回、ときに宿泊もまじえた。先生と同じ芦屋市内に住む下井基安が、下井の東京転勤後は加美雅司が幹事を担当してきた。

思い出すままにあげると、西播では平福宿、赤穂(美術館・城跡)、姫路の書写山円教寺(2000年10月)、市川流域で井上郷土玩具館・柳田國男記念館、東播では鶴林寺、一乗寺、清水寺・朝光寺・三木金物資料館・小野浄土寺(01年11月)、丹波篠山(城跡大書院、青山歴史村、丹波古陶館、美術博物館 02年10月)、丹波柏原(八幡神社・陣屋跡・歴史民俗資料館 03年5月)、神戸市内では太山寺・安養院、紀伊九度山町(01年5月)、紀伊田辺(鬮鶏神社、海蔵寺、高山寺 04年5月)、泉州犬鳴山・泉佐野(99年5月)、河内長野(2000年5月)、近江朽木(明王院・旧秀隣寺・陣屋跡・郷土資料館、03年10月)、近江柏原宿(04年10月)、湖東三寺、洛西の善峰寺・光明寺、嵯峨野の諸寺、京都市内の著名寺院、京都国立博物館・京都市美術館等、奈良市内の諸寺院、奈良国立博物館、飛鳥・藤原京の諸遺跡、橿原考古学研究所附属博物館、吉野山、高野山等々を訪れた。最近では2005年5月に、大阪中之島の東洋陶磁美術館(特別展)・中央公会堂(昼食)・湯木美術館(常設展)・適塾(入館)・大阪倶楽部(休憩)・日本基督教団大阪教会・



昭和29年10月3日 広隆寺庫裡にて 左から2人目が山口先生

山内ビル・日本銀行大阪支店・中之島バラ園(入園)を見て、一日歩いている。

先生は俳句を詠まれ、俳号を百桑と称された。毎回の散会直前に全員で署名した記録ノートに遺された句の一部を紹介する。

- 地震あとの消息交わし秋暮れぬ
- 95年11月 吹田万博記念公園(国際美術館他) 水郷に小舟捨てられ柳散る
- 96年11月 近江八幡 教え子に囲まれてみて春寒し
- 98年2月 大阪倶楽部(橋本：北朝鮮訪問談) 万緑に浸りひねもす綸垂る
- 99年5月 泉佐野 南大門くぐれば余花の散るにあふ
- 2000年5月 河内長野(天野山金剛寺) たどり着く寺に鶯高鳴きす
- 01年5月 九度山町 熊楠の旧宅不住楠若葉
- 04年5月 紀伊田辺 夏柳垂れて触れそう大川に
- 05年5月 大阪中之島

お別れの会に詣れたのは、橋本久(41回)、下井基安(42回)、加美雅司・渋谷元・中島利清(43回)、井上久弘・木谷義紀(44回)、橋本均(45回)であった。東京に竹田駿輔(41回)、千葉に西清豪(42回)等がいる。

早逝した中野雅司(42回)、平岡紘一(43回)らが彼岸で、先生をむかえて歓談していることだろう。

幸せの重み沈めて初湯浴ぶ 06年12月 会葬御礼

先生は、山口吉郎兵衛『うんすんかるた』(1961年)を纏められた他、自らも『日本のかるた』(共著 保育社、73・79・95年)、『日本のかるたあれこれ』『人形玩具研究』1号(90年9月)、『戦後五十年を顧みて』『人形玩具研究』7号(96年8月)、『茶箱の鑑賞』『大扉図版解説』『淡交』1997年増刊号、『ヨーロッパの大学都市を訪ねて』『青淵』338号(77年5月)、『中、老年奮奮』『青淵』367号(79年10月)、『歌かるたの成立とその性格』『墨スペシャル』2号など、を執筆されている。

卓越した文化人であった先生に、卒業後も学ばせていただいた事を深謝して 合掌



山麓会のメンバーと、紀伊田辺市田辺城水門前にて 後列左から2人目が山口先生

山口格太郎先生を偲んで

林 正 朗 (44回)

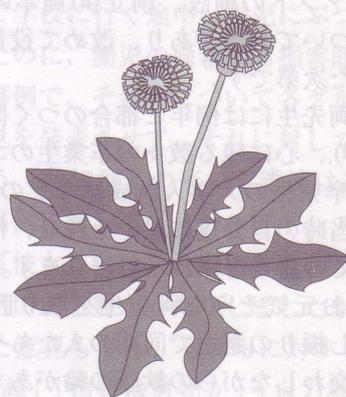
山口格太郎先生が去る10月27日に亡くなられました。私と先生の最初の出会いはもちろん高校時代のことで、その20年ほど後でしたでしょうか、朝日新聞日曜版の連載特集に「適翠美術館理事長」として先生の記事と写真が大きく載りました。あの山口先生が美術館の理事長とは知らなかったので大変驚きましたが、懐かしくて手紙を差し上げたところ、早速のご返事をいただき、是非美術館に来るようにと招待券も入っていました。当時東京にいた私は帰省のおりまだ小さい息子と一緒に美術館に先生を訪ねました。先生は気さくに歓迎くださり、甲陽時代の話や展示物の説明など自ら案内していただきました。息子には飽きないように何度も菓子を奨めてくださり、大変細やかな気の遣われ方をされる方だと印象に残っています。

それから10年ほどたって私が大阪勤務になりときどき訪問するようになってから、京都の美術館や名庭を案内しましょうということ、甲陽のクラスメート数人とともに何回かお供をして見て回りました。そして最初のメンバーと先生のお名前に因んでその同好の会を「葦毛の会」と命名していただきました。その後人数も増え京都・奈良にもよく先生の先達で行きましたが、常に事前の検分をされ、さらには昼食の場所もいくつかあたって下さるなど昔と変わらぬお気の遣いようにいつも恐縮し脱帽してしまいます。もちろん先生のご紹介とご案内なので行く先々の館長さんや責任者自らが案内して下さり、時には普通入れないようなところまで見せていただきました。そんな中で特に印象に残っているのは、京都の泉屋博古館「住友有芳園」です。その中の庭園は通常は一般公開していないのですが、このときは隅々まで案内していただきました。また奈良の「依水園」は、残念ながら先生は体調をくずされてご同行願えませんでした。事前のご手配によって中村館長様自らが長時間にわたって恐縮するほど丁寧に案内をしてくださいました。今回は京都の名庭「野村碧雲荘」に行こうと言われて楽しみにしていたのですが果たせませんでした。

適翠美術館に打ち合わせに伺ったときも、次に行く場所について資料を添えて説明して下さり、そのあと私の興味のあるつたない歴史の話題にもものっていただき楽しい時間を過ごしました。最近再評価されている若くして亡くなられた音楽家、貴志康一は先生のいとこさんだそうでそんな話をもっとお聞きしたかったと今更ながら悔やんでいます。

まだまだお元気だったのにあのように突然に亡くなられたのが今でも信じられません。

先生のご冥福をお祈りいたします。



訃 報

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

(06年12月31日現在)

三浦 通雄氏	篠田 禎三氏	打川 裕氏	小舟 哲男氏	大村 治男氏	中沢 栄一氏	安倍 通夫氏	江馬 麟太郎氏	東浦 安洋氏	青木 重雄氏	前川 柳之助氏
(15回)	(13回)	(13回)	(12回)	(12回)	(11回)	(11回)	(8回)	(8回)	(8回)	(5回)
06年9月19日	06年1月28日	05年11月9日	06年4月13日	06年1月11日	06年12月31日	06年3月5日	06年5月24日	06年6月29日	06年3月30日	06年1月16日

桜井 弘一氏	井上 涼二氏	金泉 勲氏	宮平 重隆氏	中田 宏氏	榊原 作一氏	北島 義直氏	宮脇 涉氏	和田 力也氏	広田 勝氏	広沢 瑞福氏	久保 正毅氏	濱尾 仁氏	瀬能 美雄氏	川崎 幹夫氏	宇治 秀郎氏	大原 靖氏	山本 昭治氏	中川 宏氏	杉田 信雄氏	新海 研志氏	渡辺 正更氏	鶴田 景昭氏	福井 大輔氏	福田 克己氏	雑古 昭二氏	矢島 泰造氏	木下 和久氏	川西 新氏	長瀬 彰造氏	中村 章夫氏
(工経)	(工経)	(造船2)	(機械1)	(高商2)	(高商2)	(高商2)	(81回)	(67回)	(57回)	(48回)	(38回)	(35回)	(33回)	(33回)	(33回)	(32回)	(31回)	(31回)	(28回)	(28回)	(25回)	(24回)	(24回)	(23回)	(23回)	(22回)	(21回)	(20回)	(16回)	(18回)
06年8月2日	06年7月30日	06年8月2日	04年4月1日	06年11月20日	06年6月23日	06年1月1日	02年10月29日	06年2月10日	06年10月	06年9月7日	06年8月3日	06年8月12日	06年5月	05年3月21日	06年6月	06年7月26日	06年8月	06年7月4日	05年4月25日	05年7月2日	06年4月5日	05年11月23日	06年7月23日	06年4月1日	06年4月29日	06年2月15日	06年7月30日	06年6月26日	06年5月31日	05年11月25日

会員だより

西宮医師甲陽会だより

第14回目の恒例の西宮医師甲陽会が平成18年10月28日(土)、ノボテル甲子園で開催された。参加会員30名、ゲストとして前・現校長の中村・石川両先生、同窓会々長の有田和男氏にもお越し戴いた。

当日は夕刻5時より緒方正雄君(48回)の司会のもと、有田氏から母校の同窓会の現状、とくに財政問題や甲陽奨学金ファンドの創設、創立90周年の記念事業の取り組み等についてお話があり、改めて役員諸氏の御苦労の程を知った次第です。

中村・石川両先生には例年ご都合のつく限りご出席して下さって居り、心に残る数々の卒業生のエピソードや学院の現状、卒業生の大学入試成績などのお話があり、出席者一同は当時の自分達に思いを馳せ、懐かしみや甲陽出身者としての誇りを味わって居ります。

懇親会ではお元気そうな両先生を取り囲んで話が弾み、また、久し振りの邂逅で同期の人たちや先輩後輩のグラスを酌み交わしながらの歓談の輪があちこちに見られ、途中の各自の近況報告等で大いに座も持ち上がりアツと言う間に時間が経ち午後8時に終宴。

以上が例年見られる懇親会風景ですが、この場を借りて「西宮医師甲陽会」のあらましを少しご報告致します。

西宮市内には戦前、既に大先輩の明和病院長・友国説郎先生(8回)や中川収平先生(12回)等が居られたが、敗戦後から徐々に市内各地に甲陽出身の開業医や病院勤務医が増え、一度、顔合わせの懇親会を持っては？の声が聞かれるようになった。

たまたま、38回卒の柴田始宏君(小児科開業)の同級生にツルタ薬品社長の鶴田和成さんが居り、氏の協力で呼びかけをして貰い第1回の会合が平成3年6月22日に夙川の「青宴」で開催。友国、中川両先生他13名出席。翌年1月に14名の出席で第2回目の懇親会が持たれた(孤山茶屋)。

次いで第3回目(H4.10.3)の懇親会を都ホテルで開き26名の出席。その席上、今後は年に1回、場所は母校のあった都ホテル(現・ノボテル甲子園)でとの希望があり、世話人代表に勝部英一先生(20回)が選ばれ、世話人として私と柴田君がお手伝いする事となった。

さらに折角の機会だから今後、医療界以外の分野で活躍されている甲陽出身者をお招きしてはとの事で、第4回の本会(H5.10.9)では文化・文芸プロデューサーとして大活躍の河内厚郎氏(52回)にご出席願ひ“関西の文化の復権”と題するお話を拝聴した。

以後、講師としてお出で戴いた方々は下記の通り。

- 第5回(H6.10.22) 阪大助教授・東野治之(46回)…以下敬称略
- 第6回(H8.6.15) 池上吉蔵(33回) コーナン・メディカル社長
- 第7回(H11.10.23) 非会員・井上敏明 六甲カウンセリング研究所々長
- 第8回(H12.10.21) 今村岳司(72回) 西宮市議

- 第9回(H13.10.20) 北村惣一郎(40回) 国立循環器病センター総長
- 第10回(H14.10.26) 辰野久夫(51回) 弁護士
- 第11回(H15.10.25) 岩本康男(45回) 大阪市都市計画局長
- 第12回(H16.10.16) 和田省一(46回) 朝日放送常務
- 第13回(H17.10.15) 久保田稔(53回) 関西学院大学社会学部教授
- 岸本清行(53回) 産業技術総合研究所
- 第14回(H18.10.28) 有田和男(31回) 甲陽学院同窓会々長

本会の運営は世話人会を中心にして、当初はツルタ薬品、その後は56回卒の平出到君が藤沢薬品社員の関係で同社(現・アステラス製薬・担当米花君)に後援をして貰っています。また、平成13年の第9回目より私が世話人代表を引き受け、柴田始宏(38回)緒方正雄(48回)大村武久(51回)奥平哲(54回)各世話人の協力の下、最近では近隣の芦屋、尼崎、宝塚、伊丹等からの特別参加もあり年々盛大に成りつつあります。

この場を借りてのお誘いですが、阪神間近辺の甲陽出身の医師で参加希望の方は緒方整・外医院(TEL0798-40-6058)まで御連絡下さい。

最後になりますが、本会が単なる同窓生の懇親会だけの集まりだけではなく、ともすれば閉鎖的、独善的と批判されがちな医療の世界で、せめて同窓の先輩後輩の諸氏が年1回相集い、胸襟を開いて語り合い、謙虚に医師たる自覚を持って、改めて“医療”への情熱を再認識する場になればと願っている次第です。

世話人代表 森下敬司(31回)

東京甲陽ネット第2回交流会

70回台、80回台卒が3分の1以上も

「中学・高校時代を甲陽で過ごしたことは人生の大きな宝」。参加した誰もがそんなふう実感したのではないのでしょうか。

「初対面なのに懐かしい！ すごいのに偉ぶらない！ 若いのに頼もしい！ 甲陽OBの集い、今年も」。

そんなキャッチフレーズで開かれた東京甲陽ネット第2回交流会(平成18年10月27日・虎ノ門パストラルホテル)でしたが、その通りの光景が会場の至る所で展開されました。

金曜日の夕刻という開始時間にもかかわらず、仕事もそこそこに駆けつけて下さった皆様には改めてお礼申し上げます。

●甲陽ファミリー

参加者は昨年を上回って64名に達しました。とりわけうれしかったのは、この種の集まりを敬遠しがちな若い世代が多く参加して下さったことです。ようやく社会に出るか出ないかという82回卒の6名を始め、70回台・80回台が23名で、全体の36%を占めました。一方で、31回卒の皆さんも同期の有田和男・新同窓会長が神戸から駆けつけて下さるといふことで5名が集結して下さり、交流会に厚みが加わりました。

有田同窓会長が激励の言葉と、最近の甲陽の現役学生の数学オリンピックなどでの活躍を伝えて下さったあ

と、(時間の関係で全員は無理でしたが) 司会から何人かの参加者をご紹介させていただきました。これで少し「顔と名前が一致」したところで乾杯の音頭は、長年、原子力技術の発展に貢献され、この春、原子力学会から功労賞を授与される予定の29回卒・森竜二さん。

まさに半世紀以上にわたる先輩後輩が一堂に会したわけですが、若い人たちはやはり、「皆さんフランクな甲陽の先輩と分かっている、錚々たる顔ぶれ。失礼があっては…」と、緊張の面持ちでした。

しかし、そんな彼らに大先輩も中先輩も気さくに声をかけ、ビールを注ぎ、言葉を交わして名刺交換。うちとけたところで、自分の知り合いや同級生を紹介する。そんな素晴らしい連鎖で、甲陽のOBネットがどんどん広がっていく様子がよく分かりました。

第1回のときもそうでしたが、東京甲陽ネットの交流会は、事前に卒業回、居住地、勤務先(職業)、趣味などの大まかなデータの入った「参加者名簿」をHPに掲載しています。それを見てある程度の予備知識を持って来場していただけるのですが、プリントした名簿を受付でもお渡ししています。初対面の壁を少しでも取り払っておこうという世話人会の努力(えへん!)ですが、少しはお役に立てたでしょうか。

●今年も秋に開催

「同じ業界の方とお話したい」「自分の目指す世界で活躍している先輩に教を乞いたい」「趣味が共通する人に話しかけてみよう」、…いろいろな思いで交流会に来てくださる皆さんに、「やっぱり甲陽はええなあ」という心のお土産を持って帰っていただきたいと思っています。

懐かしい旧友に会いに来る同窓会とはまた違った雰囲気、東京甲陽ネット交流会。法曹を目指す学生と東京高裁判事の門口正人さん(45回)が何やら楽しそうに笑いあっている様子や、松富重夫さん(55回卒・外務省官房参事官)や小西孝蔵さん(50回卒・農林省農林水産政策研究所所長)など官界で活躍するOBに若い人たちが真摯な表情で質問している姿も、甲陽らしい、いい光景でした。

選挙区の北九州に戻っておられた北橋健治さん(52回卒・衆院議員)は「日帰り参加。閉会后、最終便でターンです」とのこと。2月の北九州市長選に出馬されるので、決意を披瀝していただき、皆さんからあたたかいエールを頂戴しました。

会場に映し出されるセピア色の「甲子園時代」、カラーの「甲陽園・角石世代」の写真の数々が話題を提供したようです。「うわ!丸坊主や!」「当たり前や。君らは違うたんか?」。そんな他愛のない“世代間ギャップ”も東京甲陽ネットの交流会では笑いのネタです。今年も秋に開催の予定。「すごいのに偉ぶらない先輩や若いのに頼もしい後輩と、初対面なのに懐かしい出会い」を楽しんでいただきたいと思っています。(新宮康彰・45回)東京甲陽ネット(会長・佐治信忠、世話人代表・水野学、世話人・新宮康彰、下村浩、坂本真一、久保田一成、特別顧問・中川経治)＝登録はHPからお願い致します。1月10日時点の登録者数は408名です。

<http://www.tokyo-koyo.net/> 世話人へのお問い合わせは tostaff@tokyo-koyo.net まで。



18回 山桜会

毎年一回はクラス会を行っています。年ごとに参加者が少なくなるのは淋しいことです。昭和14年3月に卒業した51名のうち現在住所の分かっている級友は16名で、平成18年6月13日(火)、ラマダホテル地下1階の「林泉」に4名が集まり歓談し旧交を暖めました。(森本 記)



写真は左から清水、貴田、富田、森本

21回 橋組クラス会の報告

平成18年11月7日(火曜日)、第34回目の橋会を開催しました。夜来の風雨、いつも晴天の橋会も今年は駄目かと思いましたが、木枯し一号が吹いたものの、昼からは平穏、お蔭さまで暖かな一日でした。会場はJR芦屋駅前のホテル『竹園』です。

今年は残念なことに西嶋謙二郎君の訃報があり、開会に先立って、一堂黙祷をささげ、冥福を祈りました。昨年同様、定刻前にはほぼ全員集合、会場は3階グリル「きく」の椅子席、事務的な報告のあと乾杯、それぞれが近況報告を兼ねて歓談しました。参加者11人は昨年・一昨年に続く盛況です。入間田謙佑君が腰痛のため欠席、昨年同様使い捨てカメラを購入しました。即日、現像・焼付をしましたところ、森岡君のカメラと取り違えてびっくりしました。写真は前列左から井川 登・一色 皓・比留間敏男・森岡甲子男、後列筒井 潤・林 信男・羽間重光・井本幸雄・樋口達彦・宮津雅雄・濱口博章の11名です。

来年36回目の橋会は、平成19年11月6日(火曜日)、場所は本年同様ホテル『竹園』と決定しましたので、一年先の予定をお願いします。幹事は引き続き私がさせていただきます。(濱口博章 記)



23回 梅組 - 芳梅会

芳梅会は昭和38年(1963年)に組織されて以来毎年継続して各地での一泊旅行を遠しとせず相集い実りあるクラス会を楽しんでいる。

加齢と共に不参加者が増え、又甲陽中学校の跡地を尋ねたいとの希望もあり本年は思い出深い甲子園を中心として開催する事になった。

10月15日～16日は新装のホテル“若水”(宝塚)に宿泊し第42回芳梅会総会を盛大に開催した。当日の出席者は準会員(未亡人)を含めて16名であった。物故会員の黙祷、会長挨拶8月26日同窓会総会の報告、来年の創立90周年に当り甲陽ファン(奨学資金制度)への協力意向等を含めた説明に続き幹事より会計収支会務報告が行われ、懇親会に移り深更まで大いに盛り上げました。

明けて16日は昔なつかしい阪急、阪神電車を乗りついで甲子園へ移動。前日よりの13名と16日のみの参加者9名、計22名がホテル甲子園ロビーに集合し、旧甲陽学院跡地の西北部に位置する“甲陽学院発祥之地”のモニュメント前で記念集合撮影を行い、正午よりホテル1階で昼食会開催、なごやかに歓談が始まり準会員の方々も亡き級友の思い出話を喰入るように聞かれ満足のご様子でした。

石上兄の努力にて入学以来学年毎の集合、スナップ写真、芳梅会記念写真等を保管されている中から、昨年は記念写真集を全員に配布。本年は在学中の思い出を募集して記念文集を作成配布、校歌と応援歌のテープも配り喜ばれている。又希望によりビデオよりのコピー録音テープを作成送付し、故人を偲ぶよすがとして好評でした。高齢化で会員が減る一方ですが、伝統ある芳梅会の灯を守り続けて行く事を約し、お互いの健康を念じ名残を惜しみつつ来年は東京組のお世話による再会を楽しみに解散しました。(塚部 記)



25回 桜組クラス会

平成18年度桜組クラス会を、平成18年11月9日(木)に、大阪・北新地パーティパークで開催しました。

本年は7名の出席でありました。遠く、山形県鶴岡から小田さんが参加されました。当初、9名の参加予定でありましたが、11月に入ってからの寒気の影響からか、直前になって体調不良のため参加出来ない方があり、7名となりました。

寺田晃さんが平成17年11月19日肺炎により、根本博さんが平成18年6月4日肺瘍のため逝去されたので、それぞれのご霊前にクラス会の名前でご香料をお供えし、ご冥福をお祈り申し上げた事が報告されました。

本年は、我々が終戦の年の3月に繰り上げ卒業してから丁度61年目に当たります。軍関係に志願した人や、学徒動員で工場で働いた人等、さまざまですが、其後の戦後の混乱期、復興期を乗り越えて来た今となつては、感慨無量のものがあります。

出席者の近況報告では、皆さんが非常に元気に、多忙に過ごして居られる様子が賑やかに披露されると共に、クラス会ならではの寛いだ雰囲気の中で、四方山話に花が咲いて、楽しい一刻を過ごす事が出来ました。

最後は、恒例の校歌及び応援歌の大合唱で締め括り、来年の再会を約束して散会しました。

次に、来年の開催時期は、11月になれば寒気が到来するので、やはり気候の良い10月中旬までにすべきだとの意見が大勢を占め、来年のクラス会の開催は10月中旬まで、とする事になりました。

今回の出席者、小田圭昭、錦織達郎、宮原晃一、瑞穂光信、渡辺正雄、余部光男、安達正昭の7名でありました。

(安達 記)



42回 学年会報告

2006年(平成18年)9月16日 第9回学年会は、ハービスPLAZA「ガーデンシティクラブ大阪」で開催された。

参加は、当日急用で欠席された大野君以外29名の同窓生と中川・宮本両恩師が集まりました。

- 恩 師：中川 経治、宮本 茂
- 同級生：青井 秀夫、天野 良男、飯田 潔、石山 清信、糸井 幹雄、梅村 幸彦、加藤 武雄、金田 保夫、河野 弘志、岸 勝彦、木村 徳弘、桑田 信篤、小味淵博雄、滝本 武、辻 卓史、津田 昌宏、中明 孝夫、縄田 和良、橋本 進介、花木 繁、濱崎 延雄、浜田 雅義、本郷 毅、水野 学、三谷 一見、宮崎 恒彰、森本 正義、矢吹 宏、山田 伸郎
- 幹 事：大野 忠雄、宮崎 恒彰、森本 正義、矢吹 宏、花木 繁

プログラム：司会者：森本 正義君

- ・開会の辞：宮崎 恒彰君
 - ・招待者ご紹介とご挨拶：中川先生 宮本先生
 - ・物故者に黙祷：2006年2月 清水 康夫君
 - ・乾杯：宮崎 恒彰君
 - ・食事と歓談
 - ・近況報告（着席順：1人～2分）
 - ・次回幹事選出：事務局一任に決定
 - ・学院歌・応援歌等：桑田 信篤君、矢吹 宏君
 - ・閉会の辞（事務局 花木）
- 以上
- * 18時～20時30分の2時間半を楽しく過ごしました。



57回 学年会

2006年11月3日の文化の日、57回生の学年会を5年ぶりに行いました。いつまでも青年気分が抜けない我々ですが、なんと高校卒業30周年なのでした。場所は、梅田のグランド白楽天。恩師の林歳明先生、中村泰三先生、田村眞也先生をお迎えして、約70名ほどの宴が催されました。司会は幹事団長の中務君。はじめに徳永彦一先生ほか同期生の物故者に黙祷をして、その後恩師の先生方のご挨拶をいただき、また中学時代の学年主任だった村上千秋先生からのメッセージが披露されました。乾杯の後は、全員が30秒スピーチ。短いながら個性あふれる各自の話芸を聞くうちに、昔日の面影が目に浮かび、懐かしさが込み上げました。

ここしばらくは5年に1度の学年会でしたが、そろそろメンバーも人生後半の「同窓会年齢」に達したこともあり、もう少し頻繁に学年会をやろうという声が多く聞かれました。（今西 記）



67回 同期会

去る平成19年1月2日(火)にノボテル甲子園にて67回生の同期会を行いました。

67回同期では関西圏で毎年1月2日に同期会をすることになっています。今回は20名の同期が参加し、人数こそ大人数ではなかったものの、本当に久しぶりに同期会に出席された同期の方や東京からわざわざ来られた方、時間がないのにこのためだけに来ていただいた方、さまざまな同期の方が参加されました。まだ、忙しい年代？なので人数が集まりにくかったり、会場設定に至らぬ点があったりいつもドタバタですが、今後も集まれる同期が増えていくことを祈っています。（梅谷・山中 記）

「大阪まちづくりの集い」

卒業年次や世代が異なっても、「甲陽出身」という一言で、瞬く間に旧知の間柄であるかのように仲間意識が生まれ、親しくなれる。これは我が甲陽の、不思議で大きな魅力でしょう。今回は、そのような異世代交流の場である「大阪まちづくりの集い」をご紹介します。

平成16年の7月にスタートした本交流会は、45回・岩本康男先輩(当時大阪市計画調整局長)のご発案で、「まちづくり」に関わる、或いは関心を持つ卒業生が情報交換・勉強の場を持ち、大阪のまちを活性化して元気を取り戻したい、という趣旨のもと、官庁・運輸・法曹&放送・エネルギー・メーカー・ゼネコン・設計事務所・商社etc. さまざまな業界から、上は45回から下は68回まで世代を超えて有志が集まり、現在は50名近いメンバーになっています。第1回の大阪ウォーターフロント(名村造船跡地)から、西梅田～福島地区、大阪駅北ヤードなど「旬」のスポットのみならず、ガスビル・中央電気倶楽部など大阪の歴史を語るスポットにも着目し、これまでに計6回の会合を重ねてきましたが、昨年の暮れには、より「甲陽らしく」遊び心に富んだ勉強会をやろう、ということで、写真の「京都でソフト面からまちの活性化を考える」企画となった次第です。(平成18年12月14日京都祇園「今(こん)」にて、参加者：45回・岩本康男、47回・谷口康彦、48回・阪部茂一、49回・岩井博行／難波正人、52回・武田信一郎、54回・筒井信也／橋本通夫／肥後行人、55回・児玉潔、56回・新田恵一、67回・河井敏明 以上敬称略)

今後も色々な角度から幅広く活動していきたいと考えておりますので、趣旨にご賛同の方は事務局(55回・児玉潔 kk263@shinwa-engineer.co.jp)の方まで、ご一報下さい。



告 知 板

☆同窓生の近著ご紹介☆

同窓会員の方から、最近出版された書籍をお知らせいただきましたので、紹介いたします。ご自身やお知り合いの方の著作物などをご紹介くだされば、検討の上、甲陽アーカイブスへの掲載も考えておりますので、よろしく願いいたします。

成住俊二 (31回)『山の彼方に』(オリーゼン)

河内厚郎 (52回)『わたしの風姿花伝』(沖積舎)

『もうひとつの文士録』(沖積舎)

山中俊之 (67回)『公務員人事の研究－非効率部門脱却の処方箋』(東洋経済新報社)

☆ご注意！住所・電話番号の問い合わせ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務室」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をしている事実はありません。

皆様には、先方の名称・住所・電話番号などをご確認いただき、慎重な対処をお願いいたします。

☆理事・評議員の皆様へ☆

*理事・評議員の皆様の中で、転勤などで関西から遠くに転居された方が目立ってきました。更に理事・評議員が選出されていない卒業回、また定員不足の卒業回も見られます。

*同窓会を運営し活動を行う上で、理事・評議員の方々は重要な役割を担われており、同期の方々の代表でもいられます。会則上、理事・評議員は同期の方々が適宜の方法で選出をされることになっています。よって理事・評議員が空白の卒業回、また定員不足の卒業回の方々は、同期の方々と話し合いをされて、その更新・補充を事務局までお届けをお願いします。

*選出の人数は、理事は、同期（卒業回）から1名。評議員は、各クラスから1名（5名以内）です。

☆新卒者の終身会費制度☆

今年高校を卒業した88回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、追って振込用紙同封の文書にてご案内いたします。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方（卒業時に7年分の年会費を前納）でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.9の表をご覧ください。

☆「ノボテル甲子園」の優待券☆

甲陽学院同窓会会員用に「宿泊15%割引」「レストラン&バー10%割引」の優待券を発行していただいています。2007年12月30日までの優待券が事務局にございますので、ご希望の方は、お手数ですが、事務局までお電話・FAX・Eメールにてご請求ください。

☆「会報・甲陽だより」の原稿募集☆

*次号・第76号は、本年7月末頃に発行を予定しています。

*「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。

*原稿の締切日は、6月10日です。

☆－お願い－ 住所変更の届け ☆

*会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。

*その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。

*各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。